

令和2年度 第1回 政策調整会議 会議録①

-
- ◆開催日時:令和2年4月13日(月) 13:00~14:00
 - ◆開催場所:第1委員会室
 - ◆出席委員:堤副市長、大下教育長、残総合政策部長、寒川総務部長、坂井財務部長
-

◆審議事項

- ・岸和田市まちづくりビジョン(次期岸和田市総合計画)の策定に係る基本的な方向性について
.....企画課⇒承認
-

◆審議概要

『岸和田市まちづくりビジョン(次期岸和田市総合計画)の策定に係る基本的な方向性について』

〈説 明 者〉西川企画課長、中井担当長、前田担当員、上田担当員

- ◎付議依頼書に基づき説明
- ◎説明後、質疑応答

〈堤副市長〉「目指す」はひらがな表記にされたい。また、みんなで創り上げていくまちの計画であることがわかるよう、「みんなでめざそう値」にされたい。

〈教育長〉「策定の趣旨と背景」に記載されている「これまでの延長線上にない未来」とは何か。一定の成長が見込めず、AIを含め様々な環境変化が急激に起こり、将来の見通しが立てられず先の見えない中で、融通無碍に動けるよう、あるいは持続可能であるようにという意味で使用しているという理解である。

〈中井担当長〉これまでとは違う人口減少社会の中で、今後は技術革新により、情報化や機械化、自動化が生活の至る所に入り込んでくる時代が来ることを想定し、その社会の中でどうしていけばいいのかを考えていくということで、「延長線上にない」と記載している。

〈教育長〉市民の方も理解しやすいよう、わかりやすい表現にされたい。また、「策定の4つの視点と方向性」について、行政は「地域のプラットフォームビルダー」との記載があるが、行政の役割がそれだけであるように捉えられかねない。仕事を純化し、市行政にしかできない仕事については引き続き責任を持って担いつつ、その上でさらに新しい役割として、民の活動を支える「地域のプラットフォームビルダー」という役割があるということを明確にされたい。また、「地域のプラットフォームビルダー」という表現について、誰が見てもわかるような表現に改める、あるいは注釈をつける等の対策をされたい。

〈企画課長〉承知した。

〈教育長〉今後総合計画を策定する上での方向性であるが、PDCAはどうなっているか。

〈中井担当長〉「策定の4つの視点と方向性」の2点目に記載している「行政経営の強化」という部分になる。

- 〈教 育 長〉「重点施策と財政計画との連動を図る」とあるが、別途総合計画以外に重点施策と財政計画があるということか。
- 〈中井担当長〉重点施策については、戦略計画の中で「重点目指す成果」という形で重点項目を挙げている。財政計画については別途計画中である。
- 〈企 画 課 長〉現在の総合計画では、基本構想の下に、具体的なものとして戦略計画があり、この中で重点的に取り組んでいく項目を謳っている。次期総合計画についても同じような仕組みにしていきたいと考えている。
- 〈堤 副 市 長〉具体的な予算は書き込んでいるか。
- 〈中井担当長〉戦略計画の下の経営計画に記載している。
- 〈財 務 部 長〉どこまで反映させるかという部分はこれから調整が必要である。例えば、財政計画を5年で立ててローリングしていく中で、単年で見るとだんだん変わってくる。経営計画は3年なので、それで固定されてしまうと難しくなってくるので、どういった方法にするかについては財政と詰めていってもらいたい。
- 〈教 育 長〉総合計画の段階では財政との両立の各論までは書けないのは当然なので、選択と集中、役割の純化といった観点から方向性を示し、財政との調整を具体的に詰めていくための種を織り込んでおけばよい。今はどの自治体も財政状況が非常に悪く、財政再建の取組に関する考え方や計画目標を作っている。それは“出るを制する”という役割であるが、一方で、“入るを図る”、岸和田市がこの状況下において、これからどのような成長を目指していくのかという明確なビジョンが必要である。成長戦略のようなものは含まれてくるのか。
- 〈中井担当長〉基本構想が12年計画を想定しており、それを市長の任期に合わせ4年ごとで切ることを考えている。その4年の中で、成長戦略にあたる重点項目を掲げ、それに基づいて各事業を実施していくことをイメージしている。
- 〈企 画 課 長〉重点施策の中でもピックアップし、拡大させていくことにより計画を膨らませていきたい。
- 〈教 育 長〉重点とすべき、あるいは成長を図るべきということについて市長の考えは聞いているか。
- 〈中井担当長〉第5次計画に反映させる部分ではまだ聞いていない。
- 〈教 育 長〉政策担当として、大きな柱は何か考えているか。
- 〈中井担当長〉これから協議していく。
- 〈教 育 長〉人口動態やこれからの産業の方向性に対し、岸和田市がもつポテンシャルや強み・弱みは何か、そのために何をしなければならないかということが大切である。
- 〈堤 副 市 長〉人口推計や成長率の推計等から、どこを目指すのかを明確に。ワンフレーズのキャッチフレーズ、そのための重点施策、さらに細かい施策といった三角形のピラミッドを描かけるように。
- 〈中井担当長〉令和2年度に、データ分析やとことん懇話会の中での市民の意見から方向性を定めていきたい。とことん懇話会を行う際には、事務局側として、方向性を持ちながら進めていきたいと考えている。
- 〈堤 副 市 長〉適宜市長とのすり合わせも行いながら進めていくように。
- 〈堤 副 市 長〉現在の総合計画の目標年次はいつに設定されているのか。
- 〈中井担当長〉現在の第4次は令和4年度までの計画である。
- 〈堤 副 市 長〉そこから先、何十年先を見るといった視点はないのか。20～30年先を睨みながらのこの10年といったような視点がないと難しいのではないかと。また、「岸和田まちづくりビジョン」では、まちづくり、ハードに特化しているように見えてしまう。「岸和田ビジョン」等に変更

してはどうか。人口推計を見越してここ10年はこのように計画するといったストーリーにしておくとうわかりやすい。

〈教 育 長〉都市が元気になる要素としては、金があること、モノがあること、人がいること、メンタルの部分で存在感があること。そういったことを追求するために何をしなければならないかということを書くのが総合計画である。岸和田が置かれている現状でポテンシャルは何かということから戦略を立てていくように。

〈総 務 部 長〉少子高齢化により人、モノ、金の人の部分に特に大きな課題がある。仕事の純化を含め構想、戦略計画、経営計画に盛り込んでいっていただきたい。

〈財 務 部 長〉付議依頼書の別紙において、令和3年度人員増の必要性として1となっているが、予算計上の際、人員増が見込めないため委託をするという話であったが、どういうことか。

〈中井担当長〉人員を補うために予算をつけていただいたと認識している。令和2年度の実績がみえないところがあるので人員増1としているが、必ずしもということではない。

〈教 育 長〉方向性(案)の1ページのⅡの「1. 人口減少と超高齢社会」の文中「サービス供給に代わる」について、「加えて」等ベースを押さえつつ、ということがわかる表現に、また、Ⅲ「1. 市民みんなの総合計画」文中の「バイブル」は「指針」へそれぞれ改められたい。2ページのⅢの「2. 行政経営の強化」の文章については精査を。

〈総合政策部長〉本案件について、一部修正の上、政策決定会議に諮ることとしてよいか。

【異議なし】

⇒本件、一部修正の上承認し、政策決定会議に付議する。

令和2年4月6日

政策調整会議付議依頼書

依頼者名 総合政策部長

下記事項について、効果的かつ効率的な市政運営実施のための会議の設置に関する規程第 14 条の規定に基づき、下記のとおり付議を依頼します。

記

付議事項名	岸和田市まちづくりビジョン(次期岸和田市総合計画)の策定に係る基本的な方向性について
付議の目的 (ポイントを絞り込んで、 簡潔に記載すること。)	本市総合計画は、岸和田市自治基本条例の理念にある「市民自治都市の実現」に向けて、市政運営の方向性を明らかにする役割を担っており、現計画期間が令和4年度までになっています。令和5年度からの次期総合計画の策定に係る基本的な方向性について付議するものです。
説明者	西川 企画課長 中井 政策担当長 前田 担当員 上田 担当員
付議事項の概要	様式別紙に記載(必ず別紙様式をご提出ください。)

付議会議	令和2年度 第1回会議
付議事項	岸和田市まちづくりビジョン(次期岸和田市総合計画)の策定に係る基本的な方向性について(案)

★取組の目的

対象	市民
どのような状態を目指す	総合計画は、自治基本条例の理念にある「市民自治都市の実現」に向けて、市政運営の方向性を明らかにする役割を担っており、行政のみならず、市民や議会とともに策定し、市民みんなの目指す姿としての総合計画を作成する。

★総合計画上の位置付け

202010201	基本目標	II-2 適正で、分かりやすい行財政運営をする
↑ここにコードを入力 (コードは「総計体系」を参照)	達成された姿	(1)行政の責務が果たされていることを市民が実感できている
	目指す成果	②明確な目標設定と評価により行政運営が行われている
	行政の役割	ア 目標の達成に向けて、計画的な施策の推進と適正な進行管理に努める

★現状と課題

第4次総合計画では、21世紀型の新しい仕組みづくりとして、市民参加、地域経営の視点から、岸和田市自治基本条例の理念を具体化する役割を担う「市民みんなの総合計画」として位置付け、積極的な市民参加による総合計画の策定を実施してきたが、一方で市民による継続的な認知につなげていない。そこで、地域自治、公民協働のさらなる向上を目指し、市民参加による策定過程を重視した計画づくりとするとともに、市民が「地域づくりを自分ごと化する」新たな仕組みなど、少子、高齢社会における持続可能な地域づくりのための「みんなの総合計画」として策定していく必要がある。

(単位:千円)

実施中の取組及び予定する事項	決算(見込額)		予算額	見込額				
	H29年度	H30年度	H31(R1)年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
現状分析、アンケート調査、とことん懇話会の開催運営				16,213				
とことん懇話会の開催運営、総合計画審議会の開催					16,270	11,732		
次期総合計画印刷、配布、広報						4,000		
総合計画の進行管理			398	16	16	16	16	16
財源内訳	国費							
	府費							
	起債							
	一般財源			398	16,229	16,286	15,748	16
	その他							
事業費			計	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
			48,295	16,229	16,286	15,748	16	16

★当該事項に関連する人員増の必要性*

人員増の必要性	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
有		1			
無					

★取組の効果を表す指標

指標名	単位	H29年度	H30年度	H31(R1)年度	目標値				
					R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
① 市役所は目標の達成に向けて、計画的に施策を推進していると感じている市民の割合	%	-	11.6	12.1			11.6		
② 岸和田市まちづくりビジョンの指標のうち、目指す値が達成された割合	%	33.9	38.5	34.0			100.0		

※事業費及び人員を確約するものではない。